

注目! この本

人口減少社会の真実を伝える

「新時代からの挑戦状」厚生労働統計協会

日、「新時代からの挑戦状 未知の少親多死社会をどう生きるか」(金子隆一、村木厚子、宮本太郎著、本体1500円)を刊行した。

同協会は、社会保障関係の専門誌出版や統計の提供等を行う一般財団法人。そこから垣間見える日本社会の変化と、「人口減少社会」についての誤解に基づ

日本が世界に先駆け、未曾有の「少子高齢・人口減少社会」になることは、つとに指摘されている。だがそれがいったいどんな社会なのかについては、いまひとつピンとこない人が多いようだ。そうした社会を正しく理解し、生きていくためのヒントを提供することを目的に、厚生労働統計協会が7月5

第一部「人口減少社会」とはどのような社会なのか?では、その真の姿について、人口問題研究の第一人者である明治大学・金子特任教授の論考を掲載。第二部は、金子村木(元厚生労働事務次官)、宮本(中央大学法学部教授)3氏の鼎談を収録する。

出版元名や著者の名と肩書から難解な本を想像しがちだが、きわめて明快で分かりやすいのが本書の特徴だ。少子化ならぬ「少親化」、肩車社会ならぬ「重量挙げ社会」など、

本を支えてきた社会経済システムをその理念の部分から覆す可能性があること、日本人の家族や人生を一変させ得ることなどを指摘。「今の社会をつくりあげろに当たって、私たちが何を大切にしようか」と問いかける。第二部は「ではその中でどう生きるのか」がテーマだが、専門家が3氏はそれぞれの立場と視点から、日本社会に固有の「年齢輪切り主義」等の慣習、価値観が、素早い有効な対策に支障をきたした点に言及。そこから脱して新たな仕組みや価値観を構築することが、喫緊の課題だと説く。

読者対象はこの問題に関心をもつ公務員、ビジネスパーソン、中年、若者など、幅広い層。同協会では、専門書でなく新刊一般書コーナーでの展開を希望している。(芦)

■担当者の「売り言葉」
「副題の『少親多死社会』は、今後わが国が直面する厳しい現実を表現した新しい言葉です。しかし本書は、暗い未来ばかり予想したセンセーショナルな本ではなく、そうした時代にあっても我々がいきいきと生きていくためのヒントが、キーワードとともに散りばめられています。一読して頂ければ、明日に向けて生きる力がどんどん湧いてきます」

新時代からの挑戦状

未知の少親多死社会をどう生きるか



平成が終わる今、生きるヒント

人生最後の一大事とは 少子高齢化
幸福に近づくためには 少親多死
自立というのには 何をすべきか

的を射た造語も随所に盛り込まれている。だが分かりやすいだけに、読者は問題の複雑さと真の深刻さを容赦なく突きつけられる。第一部で著者は、人口問題はこれまで日

すい社会形成へのチャンスとして捉えることができるか否か、いま我々は、大きな発想の転換を促されている。

著者対象はこの問題に関心をもつ公務員、ビジネスパーソン、中年、若者など、幅広い層。同協会では、専門書でなく新刊一般書コーナーでの展開を希望している。(芦)

(西山裕)